

六地藏

「流山の石仏」(昭和 62 年 (1987) 10 月 20 日発行) や「流山金石文目録 (昭和 51 年 2 月 29 日発行) を基に、市内の六地藏を調査した。資料には 51 ヶ所掲載されていたが、33 年も経過したためか、発見できない「不明」なものが 5 ヶ所、新しくなっていたものが 8 ヶ所であった。逆に、資料に掲載されていないものを 4 ヶ所確認できた。特に、これまでまったく気が付かなかった珍しい形態の灯籠型六地藏が、私どもに最も身近な閻魔堂にあったことが新しい発見となった。以下、主だった六地藏を掲載する。

ところで、六地藏とは地蔵菩薩の六分身をいう。人は死後に生前の行為の善悪の如何によって、「地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天」という仏教の六道輪廻の思想に基づき、六道を輪廻、転生するといわれる。また、どの道に行ってもそれぞれ六種の地蔵が人々を救うとする説が生まれた。ただ、六地藏に関する内容は、経典により名称が異なったり、六地藏の並びや持ち物が一樣ではないので注意する必要がある。偉容は合掌のほか、蓮華、錫杖、香炉、幢、数珠、宝珠などを持ち物とするが、持物と呼称は必ずしも統一されていない。

下花輪・賛歳坊 立像 丸彫

正徳二年壬辰四月

* 円形六像となっており、珍しい形式である。



流山 2・閻魔堂 享保三戊戌年七月廿四日

(延命・法印・法性・法印・宝性・地持)

善男善女念仏講中 (戒名 1) 丸彫

* 閻魔様 (お地蔵様の化身といわれる) の前にある。

長崎 2・金乗院 奉唱口念仏講中二世安楽也

寛保元口辛酉十月吉日

長崎村同行十一人・同行十二人 (人名 12・戒名 29)





東深井・浄信寺 文化九壬申天四月吉日

当村女人講中三十八人 立像 櫛

一石六体如意輪観音付

*非常に珍しい、形態である。

三輪野山・茂侶神社 六地藏尊供養塔

文化十癸酉年九月廿四日

三輪野山講中三十二人 施主智明法尼 立像 櫛

一石六体如意輪観音付

* 非常に珍しい一石六体の形態である。また、神社にあるのは、昔、神宮寺があったからと思われる。



流山閻魔堂 灯籠型六地藏 (*流山の石仏)

(オン) 西心法師姿菩提 寛政十戊午歳次

八月十有二日 上達法身下及六道 (前面3体・後面3体)

*閻魔堂で、何気なく見つけた。

* お地藏さんをはじめ庚申塔などの石塔を調査する場合に注意したいのは、その場所に初めから建立されていたか、あるいは、刻印されている内容が本当なのかを少し疑う必要がある。

(2021.3.15 中野 隆志)